

## 「今」に響く預言者のことば

主任司祭 吉池 好高

聖書百週間の配分表に従って、創世記の始めから読み進めてきた「聖書を通読する会」も参加者の皆さんの熱意によって、「エゼキエル書」まで来ました。預言者エゼキエルが登場するのは、旧約の神の民が経験した破局の時代です。

王都エルサレムとその周辺地域でかろうじて命脈を保っていたユダ王国は、バビロニア帝国の侵攻によって滅亡します。人々の信仰の中心、精神的拠りどころであった神殿は破壊され、王を始め、国の中枢を担っていた人々は捕囚として、バビロニア帝国の各地に強制的に連行されて行きます。いわゆる、バビロン捕囚の時代です。

この時代に前後して登場した預言者たちは、この破局を予見し、それを免れるように、主である神に立ち戻るよう警告を発し続けます。けれども、彼らのその警告は次第に絶望の色を濃くして行きます。破局に向って進展してゆく時代の流れの中で、彼らの警告は聴かれることがなかったからです。その絶望の中で、預言者たちは、迫り来るこの破局も、彼らの主である神によってもたらされるものであることを悟るのです。何故、神はこのような破局を自分たちにもたらそうとされているのか。預言者たちのこの苦悩の省察の中から、神の民としてのイスラエルがたどった歴史が見えてきたのです。迫り来るこの破局は、主である神の怒りに燃えた裁きなのだ。何故なら、主である神の大いなる恵みの愛によってこの約束の地に導き入れられた時から、ダビデ王に与えられた恵みの約束にもかかわらず、イスラエルの民は主である神を捨て、その掟に背いて、神ならざる異教の神々に心を移し、その神々に仕える人々の風習に染まり続けて来たからだ。今やこの破局は避けられない。この破局に直面してなしえることは、それを自分たちに向けられた神の怒りの裁きとして、神の御前に頭を垂れ、胸を打ちつつ、甘んじて受け入れることだ。私たちにそれが出来る時、この破局の彼方に、主である神はその憐れみによって、新たな救いのみわざを行ってくださる。これが、預言者たちの最後のメッセージです。今の、私たちへのメッセージです。